

このやちほひのみみ　こしのつたのぬなかわひり　よほづ　こづかししとね　そのぬなかわひめのかたいたり

此八千矛神、高志國之沼河比賣を將婚しに幸行之時、到其沼河比賣之家て

し(の)國に賢く美しい娘がいると聞いてやってきました。太刀の紐も解かず、上に着る襲

うたいたまひ

歌曰　く。

(かさね)もまだ脱がないのに、乙女の部屋の閉じた板戸を押したり引いたりしな

やちほひの　かみのみよほ　やしほへて　(みまね)なわね　とねとねし

夜知富許能、迦微能美許登波、夜斯麻久爾、都麻麻岐迦泥豆、登富登富斯、

がら外に立っていると、山では鶉(ぬえ)が鳴く、野には雉(きじ)が鳴き、庭で鶏が

こしのへたに　さかしめを　あつしあかして　くむしめを　あつしあかして

故志能久邇邇、佐加志賣衰、阿理登岐加志豆、久波志賣遠、阿理登岐加志豆、

鳴く。忌々(いまいま)しくも鳴くことだ。みんな打ち懲(こ)りしてくれ。

さよほへて　ありたし　よほへて　あつかたせ　たらがおも

佐用婆比爾、阿理多多斯、用婆比邇、阿理迦用婆勢、多知賀遠母、

いまたいかにす　あつしあか　こづかししとね　おとの　なすやとたね

伊麻陀登加受豆、淤須比遠母、伊麻陀登加泥婆、遠登賣能、那須夜伊多斗遠、

爾其 沼河日賣未開戸　て、自内歌曰　。

淤會夫良比、和何多多勢禮婆、比許豆良比、和何多多勢禮婆、阿遠夜麻邇、

ぬえなほ　さあつり　あつしあか　いづり　かほなへ

奴延波那伎、佐怒都登理、岐藝斯波登與牟、爾波都登理、迦那波那久、

うれたんも　なくなむらら　いづり　いしだらや

宇禮多久母、那久那留登理加、許能登理母、宇知夜米許世泥、伊斯多布夜、

あまはせせいご　いづり　なたるまゝ　いづり

阿麻波勢豆加比、許登能、加多理其登母、許遠婆。

あまはせせいご　いづり　なたるまゝ　いづり

阿麻波世豆迦比、許登能、加多理其登母、許遠婆。

【歌の意味】

【歌の意味】

八千矛の神は、この八嶋国に妻を求めることができないうたが、はるばると越(こ)

八千矛の神よ、平凡な女ですから、心は、今は浜辺の千鳥のように騒いでいます、

後では平和(なごり)に静まりますのに、命だけは失わないでください。

阿遠夜麻邇、比賀迦久良婆、奴婆多麻能、用波伊傳那牟。阿佐比能

惠美佐迦延岐豆、多久豆怒能、斯路岐多陀牟岐、阿和由岐能、和迦夜流牟泥遠、

曾陀多岐、多多岐麻那賀理、麻多麻傳、多麻傳佐斯麻岐、毛毛那賀爾、

伊波那佐牟遠、阿夜爾、那古斐支許志。夜知富許能、迦微能美許登。

許登能、迦多理基登母、許遠婆。故其夜者不合而、明日夜、為御合也。

【歌の意味】

青山に日が沈むと、夜には出てくよう。朝日のように微笑みかけるとき、白い腕で

若々しい胸に触れ、互いに抱き合って、互いの手を枕にして、足をゆったりと伸ばし

て寝ようとしているのに、ああ、恋の言葉を言わないで。八千矛の神よ。

またそのかみのおおきさますせりびめのみなと いたかうわりねたみし かげのひよりのかみわけて

又其神之嫡后 須勢理毘賣命、甚為嫉妬 たまいき。故其日子遲神和備豆、

いずもよりやまのこのへたにのほりまるとして よそいしたすまも かたみでは しまのつらにかけ かたみあし

自出雲將上坐倭國而 、東裝立時に、片御手者繫御馬之鞍、片御足

そのみあきみにまみられて うたいたま

蹈入其御鏡而、歌曰 わく。

奴婆多麻能、久路岐美祁斯遠、麻都夫佐爾、登理與會比、淤岐都登理、

奴婆多麻能、波多多藝母、許禮婆布佐波受、幣都那美、曾邇奴岐宇豆、

牟那美流登岐、阿遠岐美祁斯遠、麻都夫佐邇、登理與會比、於岐都登理、

牟那美流登岐、波多多藝母、許母布佐波受、幣都那美、曾邇奴棄宇豆、

夜麻賀多爾、麻岐斯、阿多尼都岐、曾米紀賀斯流邇、斯米許呂母遠、

夜麻賀多爾、麻岐斯、阿多尼都岐、曾米紀賀斯流邇、斯米許呂母遠、

麻都夫佐邇、登理與會比、淤岐都登理、牟那美流登岐、波多多藝母、

許斯與呂志、伊刀古夜能、伊毛能美許等、牟良登理能、

和賀牟禮伊那婆、比氣登理能、和賀比氣伊那婆、那迦士登波、那波伊布登母、

夜麻登能、比登母登須須岐、宇那加夫斯、那賀那加佐麻久、阿佐阿米能、

佐疑理邇、多多牟岐、和加久佐能、都麻能美許登、許登能、加多理基登母、

許遠婆。

爾其后 取大御酒坏 立依指擧而歌曰 ぐ。

【歌の意味】

黒い衣を入念に身に着けて、水鳥が長い首を曲げて自分の胸を見るように、自分の服装を、袖を揚げて見た。これはよくない、磯に投げ棄ててしまえ。青い衣を入

念に身に着けて、水鳥が長い首を曲げて自分の胸を見るように、自分の服装を、

袖を揚げて見た。これもよくない、磯に投げ棄ててしまえ。山里で求めた、茜の絞

り汁に染めた衣を入念に身に着けて、水鳥が長い首を曲げて自分の胸を見るよう

に、自分の服装を、袖を揚げて見た。これこそよろしい。恋しい妹の命、群鳥のよう

に、私が大勢で群れて行ったなら、または引け鳥のように、みんなに引かれて行っ

たなら、「泣かない」とあなたは言うが、山の一本薄は頂をうなだれている。あなた

が泣き出すときには、涙の霧が立つに違いない。若草のような私の妻よ。

夜知富許能、加微能美許登夜、
阿賀淤富久邇、奴斯許曾波、遠邇伊麻世婆、宇知微流、斯麻能佐岐邪岐、
加岐微流、伊蘇能佐岐淤知受、和加久佐能、都麻母多勢良米、阿波母與、
賣邇斯阿禮婆、那遠岐豆、遠波那志、那遠岐豆、都麻波那斯、阿夜加岐能、
布波夜賀斯多爾、牟斯夫須麻、爾古夜賀斯多爾、多久夫須麻、佐夜具賀斯多爾、
阿和由岐能、和加夜流牟泥遠、多久豆怒能、斯路岐多陀牟岐、曾陀多岐、
多多岐麻那賀理、麻多麻傳、多麻傳佐斯麻岐、毛毛那賀邇、伊遠斯那世。

登與美岐、多豆麻都良世。

【歌の意味】

八千矛の神の命、私の大国(おおくに)、あなたの場合は、男ですから、目に入る鳥

の崎々（さきざき）、磯の崎まづ、あつめるといふに妻を持つてしよ。私はやひび

り女ですから、あなたの他に夫はいません。飾り布を垣のように巡らし、ふんわり

した幕の下に、暖かい床を敷き、柔らかい幕の下に、木綿の床を敷き、さやさやと

さやぐ幕の下で、柔らかな若々しい胸に、白い腕で触れ、互いに抱き合つて、互いの

手を枕にして、足をゆつたりと伸ばして寝ましよう。

如此歌て、即 爲宇伎由比而、宇那賀氣理豆、至今鎮坐也。此謂之神語也。

故此大國主神、坐胸形奥津宮神 多紀理毘賣命に娶て生みませる子。

阿遲金且高日子根神。次妹 高比賣命。亦名は、下光比賣命。

阿遲金且高日子根神は、今謂迦毛大御神者也。

大國主神 亦神屋楯比賣命に娶て生みませる子。事代主神。亦

八嶋牟遲能神之女鳥耳神に娶て生みませる子。鳥鳴海神。此神日名照額田毘

道男伊許知邇神に娶て生みませる子。國忍富神。此神、葦那陀迦神、亦名

八河江比賣に娶て生みませる子。速甕之多氣佐波夜遲奴美神。此神

天之甕主神之女前玉比賣に娶て生みませる子。甕主日子神。此神

淤加美神之女比那良志毘賣に娶て生みませる子。多比理岐志麻流美神。此神

比比羅木之其花麻豆美神之女活玉前玉比賣神に娶て生みませる子。

美呂浪神。此神敷山主神之女 青沼馬沼押比賣に娶て生みませる子。

布忍富鳥鳴海神。此神若晝女神に娶て生みませる子。天日腹大科度美神。

此神 天狹霧神之女 遠津待根神に娶て生みませる子。遠津山岬多良斯神。

右件 自八嶋土奴美神以下、遠津山岬帶神以前、稱十七世神。

故大國主神 坐出雲之御大之御前時に、自波穗、乘天之羅摩船而、

内剥鵝皮剝 爲衣服、有歸來神。爾雖問其名 不答。且、

雖問所從之諸神、皆白不知。爾多邇具久白言。此者、久延毘古必知之。

